

10 生き物調査員の声

月ごとに提出する報告書の裏は自由に記述していただく欄になっています。それを10号まで発行した『生き物調査ニュースレター』に載せてきました。その中から一部を抜粋してここに載せ、調査員の方々の生き物や自然環境に寄せる気持ちの一端をお伝えします。(なるべく原文のまま載せてあります)

指標生物について

オオイヌノフグリ

O・Sさん 小さな花だから、あったときは、あっとびっくりしたけど、すごくかわいい花で見つけられてよかったです。

カタクリ

U・Sさん トリムの森で調査しました。上の方に向かって右側の斜面にはカタクリがいっぱい咲いていました。ほかにも白い花の野花や昔はコンコン花と呼んでいた花がいっぱい咲いていました。

I・Tさん 4/20頃、調査に行きましたが、花が真っ盛りでした。5/3に再度調査に行きましたが花が終わっていました。今年は花の咲き始めが遅いようです。

オオバコ

T・Mさん 僕とママがオオバコのくきをひっかけあって、ひっぱりあって、きれたほうがまけというゲームをしました。(おすもう)

N・Wさん サンファームのりんごの木の下にオオバコの穂が伸びて沢山あり、子供たちと草ずもうをとって遊びました。子供たちもだんだんと熱が入って、強そうなものを探してくるようになり遊んでいる中で草1本でも見分けがついてくることにうれしく感じました。

ネジバナ

T・Kさん この空き地にはいつも多くのネジバナが咲いていると思って行くが、最近は草刈りもせず、除草剤を使ってしまい、すっかり変わってしまった。残念に思います。必要に迫られて使っているのですが、せちがらい世の中、小さい命に目を向けることのできない人間の勝手さに、つい自然に対して頭が下がります。ネジバナ(別名モジズリ)私は別名のほうが好きです。

スイバ

N・Wさん 石上から三貫地の土手両側にスイバの赤い穂を沢山見ることができました。名前がわからないときはあまり気にせずにいたのですが、今は違って精一杯花をつけている草花に生命力を感じました。

クズ

E・Yさん クズの甘い香が近くを通るだけでわかるようになりました。クズの花と青空の入道雲を見ると、ああ、夏だなと思います。

セイタカアワダチソウ

M・Tさん セイタカアワダチソウは、いつ頃、日本各地によくみられるようになったのでしょうか。私の不鮮明な記憶では、小さいころはあまり見られず、中学か高校に通っているころから、たちまちあちこちで見られるようになって、ススキがほとんど見られなくなったように思います。しかし、20年くらい前から、またススキが比較的によく見られるようになったのではないのでしょうか。

幹周り2m以上の樹木

W・Hさん 姫ノ城のブナを見に行きました。3本のうち1本は2mを超えていました。今年はたくさん実を付けてくれました。今年のブナはどこでもたくさんの実を付けたようです。でも、大崎山のナラやクヌギのドングリは昨年に比べ不作であり見る事ができません。

T・Sさん 本成寺、すごいデカイ木で大はくりよくでした。形はさまざまでグニョッと曲がっているのがあったり、変な穴が空いてるのがあったりでした。一番デカかったのはケヤキの4.5m！ すっげー！

T・Nさん すごい大きな木があってびっくりした。最大で4.60mのケヤキを見つけた。「自然」という存在の大きさに感動。(本成寺院内にて)

モンシロチョウ

U・Kさん モンシロチョウを探しに大島小学校の裏に来、一面の田んぼにどうかなと思っていたら、排水路沿いの土手に乱舞しているのが遠くからも見えた。近づいて、野の花が沢山咲いているからだとか合点がいった。

キチョウ

N・Wさん 大崎山の体育館前のクズの花に黄色いチョウがとまりました。丁度よく知っている方に聞くことができ、「キチョウ」であると……。雨上がりで葉の緑とチョウの黄が大変美しく見えました。

シオカラトンボ

T・Hさん 6月から7月にかけては♀が多かった。7月中旬からは♂ばかりで♀を全然見なくなった。ある日、♂同士が交尾のようにくっついてとんでいるのを見た。何がどうなっているのだろう。謎だ。

I・Tさん 実際に確認できたのは3箇所。らしいのが飛んでいるのは、このほか周辺で多数見かけたがシオカラトンボか似ているトンボなのかは未確認。田んぼが多くて近寄ると田の方へ飛んで行きなかなか確認できない。

ハグロトンボ

N・Wさん 8月4日9時ごろ、川べりの草に思いがけずハグロトンボを見つけた。こんな陽の当たるところにもいるのかと不思議であった。あまり陽の当たらないひんやりした所にいるトンボだと思っていたので、お目にかかれて本当にうれしかった。子どもの時は、黒いトンボなのでカラストンボと言っていたように思う。お盆のトンボとも言っていた。とても懐かしい。

S・Iさん 東新保に30年以上住んでいるが、ハグロトンボを見たのは今年が初めてである。五十嵐川のほとり大浦地区では10年前には広く見かけているが。

S・Tさん ハグロトンボは、島田川中流域で確認できた。また、最下流部にもいた。近年確認できているが、5年くらい前までは見た記憶がない。同じく新通川でも確認できた。何らかの環境変化があるのでしょうか。

ヘイケボタル

Y・Yさん 6/19には、ゲンジも見られましたが、さすが7月に入りヘイケしか見られませんでした。月ヶ岡養護学校の裏手の小川と田んぼの間です。

M・Sさん お盆に子どもたちと近くの田んぼで花火をしました。そのとき、稲の中から光るものがあり、近づいてみるとホタルのようでした。娘が手にとって見たのですが暗いことと小さい虫とあってよく分からず、すぐに稲の中に返してやりました。時々ピカピカ光っていました。こんな田んぼにもホタルがと思いました。

ショウリョウバッタ

T・Hさん 草がはえてさえいればいるのかと思ってみたがそうでもない。田んぼの道を歩いていてもさっぱり見かけないし、空き地や休耕田にもそうそうたくさんいる様子はない。

オオカマキリ

O・Kさん 上須頃の植え込みの中にいました。カマキリもいろいろな種類がいるので迷いましたが、後ろ羽がかすかにみえました。その色が黒っぽい茶色でしたのでオオカマキリではないかと思いマーカーをつけました。

H・Tさん 9/30 我が家の庭の木に卵塊がありました。地上1m10～20cmのところでした。今年は雪が多いのでしょうか。10/1に届いたニュースレターの絵を見てオオカマキリの卵塊と確認できてちょうど良かったです。

ヒグラシ

I・Tさん 早朝4時頃、遠く南の方から鳴き出します。遠くのヒグラシが鳴くと、近くのヒグラシが応えて鳴き出し、また、遠くのヒグラシが鳴く。この繰り返しで30分くらい続きます。夕方また鳴き出しますが早朝のように長くは続きません。

アオサギ

K・Tさん 餌がないかと、ジーと見張って立っているアオサギの根性、と思うと、遠くの人影にもサーッと飛び立つ警戒心に感心する？

M・Sさん 田んぼの稲穂が垂れ下がっている中、雑草のヒエ取りに出かけたとき、私たちの存在に気づいたアオサギが驚いたのか羽ばたいていきました。シラサギよりもひとまわりもふたまわりも大きなアオサギが飛び立つ姿を見て感動しました。

H・Kさん さむそうな川の中。アオサギって冬でも川の中に足を入れていた。ビックリしました！5羽いた。アオサギが！ 田んぼのところにいっぱいいました。近くによって行ってもにげませんでした。つよい！

カッコウ

I・Rさん この時期になると、早朝鳴きます。姿は見えませんが毎朝毎朝鳴いています。初夏の訪れを感じさせるお客様です。

E・Yさん 電線に止まって鳴いていました。鳴く姿を直接見るのは初めてで感激しました。鳴かないときはちょっと山鳩のように見えるのに、鳴くと尾をピンと上げて鳴く写真の様子がよく分かりました。

カワセミ

O・Sさん 44-3で見たのは初めてです。3m先の川の木に止まっていて、青やオレンジの鮮やかさにびっくりしました。

ヒバリ

M・Tさん 7/18早朝散歩時、この時期でもヒバリが鳴いていることに驚きました。ヒバリといえば、遥か上空か田の稲の中でしか鳴いていないと思っていましたが、農道のアスファルト上に、つがいと思われる2羽が歩きながら鳴いていました。近づいたら逃げ去っていましたが、これほど間近にヒバリを確認できたのは初めてです。

ツバメのいる巣

T・Hさん 先日おじゃました家の納屋にいくと、おばあさんが内職していたので話を聞きました。ヒナはまだ小さい。今年はいつもより半月ほどくるのが遅かったとのこと。（いつもは4月初めにくる）4～5年前から毎年きていて、壊れた物も含め5つの巣の跡があり、内2つが使われている。ヒナは5羽ずつ生まれ、2回産むので毎年2組のつがいが20羽のヒナを巣立たせている勘定になる。

モズ

K・Hさん 10月16日～10月30日まで、毎日PM5:00～5:15の間に鳴き声が聞こえます。我が家のうらの木にモズのねぐらがあるのでしょうか。モズはかわいくて、鳴き方はけたたましくて、モズがやってくるとすぐに鳴き声でわかります。

オオヨシキリ

K・Hさん 河川工事のため葦原も狭まり、渡瀬橋と田島橋の間で聞こえる声はわずかでした。渡瀬橋上流のかしましさと対照的でした。

Y・Yさん 6月の一斉調査ではじめて教えてもらいました。鳴くときまっ赤な大きな口をあけた姿のかわいらしいこと。

メダカ

S・Kさん 県央工業高校近くの水路で見つけました。コンクリート3面側溝の農業用水路です。たぶん放流ではないと思われますが、去年の水害で一面水浸しになったことを考えると以前からいたとも判定できません。繁殖しており（捕ってきて観察していますが卵を持っています）ずっと以前からいたようにも思われます。一見とてもメダカがすめるような水路ではありませんので、とても意外でした。コンクリート張りでも水草はえていれば生息可能と証明されたようで、うれしいやら複雑です。しかし、発見から一週間後、そこにふたがかけられる工事が行われました。これではもうだめです。非常に残念です。

K・Mさん 農薬をバンバン使っているコンクリート3面張りのドブに出現。ここは家の裏だし、去年はナマズがいて、今年はシマドジョウとドジョウが復活！ ミズアオイやキクモといった水草もふえている。アメリカザリガニとカナダモ、これは駆除している。

ニホンアマガエル

E・Yさん 田んぼに水が入って、夕暮れ時など家々の灯が水面に映え、とても美しい風景です。かわいいカエルたちの鳴き声も聞こえます。こんな風景がいつまでも続いてほしいなあと思います。

S・Sさん 窓枠にアマガエルが1匹張り付き、のど笛を膨らませたりへこませたり、なかなか愛嬌がある。家の中に入ってくることもある。私は友達の訪問のような気がして嬉しい。田んぼが少なくなったためか数が少なくなり、そのせいか蛇もいなくなった。

トノサマガエル

I・Kさん 何年ぶりに（何十年ぶりかも）トノサマガエルを見た。昔、子供の頃、姉とカエルつりをしたものだ。（S40年代）細い竹の先にひもを結び、そのひもの先に丸めた草をつける。それを池の表面に虫が飛び跳ねているようにチョコッ、チョコッとつけるとカエルがおもしろいようにつれた。そのときのつり上げた手の感触、重さがまだ残っている。

カワニナ

M・Tさん 我が家の裏の側溝に住み着いたカワニナは毎年夏にホタルを見せてくれていましたが、今年の日照りでわずかな水の中に1つ2つしかみられなくなり心配していました。しかし、ここ数日の雨で回復した流れを見ると10体くらいあり、泥の中にひそんでいたんだと安心しました。しかし、この不順な天候で生物は苦勞している様子で、ことはホタルが見られるかどうか心配です。



S・Rさん 神社やお寺など大きな木や池があり、人があまりこない所には街のなかでもいろいろな昆虫や小魚などの水生生物がいるんですね。小さな子と一緒にのんびりと自然を楽しんでいます。

O・Kさん 水害後住所を移転し、隣が水田という環境に越しました。島田と比べ生態系が豊かなのには驚きました。ハイビスカスにアブラムシがいっぱいと思っていたらテントウムシの幼虫が次々に退治してくれました。でも、ある朝スズメが現れてテントウムシはいなくなりました。オクラの葉にガの幼虫がつくのですがアマガエルが食べてくれて大助かりです。アサガオにはスカシバのでっかい幼虫がいてびっくり。トックリバチが外壁に巣をつくっているのも観察できました。

S・Tさん 子どもと一緒に如法寺のため池近くに調査に行った際、タマムシの死体を発見した。その美しい姿を見るのは何年かぶりであり、まだ三条にもいるのだと感激した。ため池からの側溝に二枚貝を発見した。イシガイ、ドブガイ、カラスガイ、バタガイ、いずれかは分からないが相当大きいものもいた。ここでの本命はイモリであったが、今回も発見できなかった。

S・Tさん 4月10日、子どもと一日調査した。事前に地形図でそれらしい場所にめぼしをつけたが、なんとマシジミを発見した。下田村の大浦付近では大型のものが相当数確認できるものの、三条では無理と思っていたが、大変うれしかった。ただし、だいぶ小型である。個体数はそれなりだが生息範囲はかなり限られるかもしれない。少し調べたいと考えている。(場所は新通川の最上流部)



S・Sさん 10年ぶりの初夏の大崎山は感慨ひとしおであった。もう一度見たいと思っていた「エゴ」の可憐な小さな花に再び逢うことができ最高にうれしかった。10年前、一緒にエゴの花を見た嫁に（現在横浜在住）先日電話で「エゴの花が咲いていましたか」と聞かれた。あの美しさは誰の心にも残っているらしい。

T・Mさん 日常は無関心なオオバコの特徴の解説を聞き、観察路に沿って咲く草花、初夏に近づいた新鮮な樹木について、一つ一つていねいな解説を聞いた。親しみやすく私たちの生活に結びついた植物、純日本の植物と外国から飛来する植物との問題点等大崎山にもたくさんの種類の植物が群生していることを改めて知るとともに、自然の持つ生命力、私たちが自然によって育てられていることを実感した。



アオスジアゲハ

N・Tさん 数年前からタブノキに「アオスジアゲハ」が産卵にやってくるようになりました。今年も7月中～下旬にかけて数匹を見ました。一昨年秋には入広瀬の大白川で「アサギマダラ」と出会いましたが、元来南方系のチョウが見られるようになったのも温暖化の影響によるものでしょうか。

ムシキング

Y・Mさん 保内公園の見晴台のところでナラの木に4匹くらいカブトムシがいました。1匹だけ持ち帰り子どもと育てましたが8/30に死んでしまい、がっかりです。今、子どもたちの間で、ムシキングというゲームがブームになっています。外国産のカブトムシやクワガタを高価な値段でペットショップから買って来ているようです。育てると言うよりムシどうし戦わせて遊んでいるようです。なかには逃げたり、弱って死んでしまうことも多いようです。困ったものです。外国産が強くなり、日本の虫が減ってしまうのでは・・・と心配です。

河川改修

S・Sさん 私は、渡瀬橋付近に住んでいます。復旧工事が急ピッチで進められています。私の家近くまで迫っています。西大崎側はこれからのようですが、此处一箇所ぐらいは川原など自然を残していただけませんか。四季の花、虫、鳥など貴重な生物が沢山います。また、この場所は市民の憩いの場所でもあります。いつか、テレビで自然を残す河川に取り組んでいる市町村があることを知りました。何卒、此处に一箇所だけでもそのような河川のありかたを考えていただければ幸いです。

土手の草刈り

A・Yさん 土手の草取りは全く必要ない、とは言わないが、過度の刈り取りは昆虫そのほかの生物の生息に悪影響が出る。また、刈り取りの時期も選ぶべきと感じた。ほか、除草剤の使用は深刻なものです。廻ってみて情けないという思いでした。

田の宅地化

K・Mさん 西裏館（石上）、興野にかけて水田が広がる。かつて、バン、カイツブリ、モズ、キジが豊富な地域であった。最近の開発でバン、カイツブリは姿を消した。キジも少なくなった。今後どんどん住宅街にうもれるかもしれない。

ミヤマクワガタ

S・Tさん 11月5日、トリムの森でツクツクボウシの鳴き声を聞いた。私が子どものころ（30年以上前）には記憶にない。温暖化の影響なのか？トリムの森付近では子どものころよくミヤマクワガタが採れた。朝早く栗の木を蹴ると、必ず10～20匹も落ちてきた。しかし今は、子どもと同じところへ行ってもミヤマクワガタを発見できない。以前は、単に里山が荒れてしまってミヤマクワガタが育つ環境でなくなったのかなと考えていた。でも考えてみれば、30年前と月岡の山の環境がどれほど変わったのだろうか。11月にツクツクボウシを聞いて考えたことは「ここは（月岡の山）は深山ではなくなってしまったのかな」と言うことである。ミヤマクワガタは平地では採れにくい。きっともう少し標高が高いところで探せば見つかるのだろう。しかし、温暖化で月岡の山で見つけることができなくなるのは寂しい気持ちでいっぱいである。

ギフチョウ

N・Tさん （ギフチョウ）道心坂採集処分場左手登る。昔はすぐに見つけることができたが今回はわずかに2頭だけを確認。カンアオイ（ギフチョウの食草）もわずかに散在。加えて市外からの採集者5～6人（いずれも補虫網持参）と出会う。いずれもギフチョウ目的の採集者と見られる。残念ながら個体の減少もやむなし。



平成17年環境ポスター 入選作品

山谷 昂さん（大浦小学校6年生）